

# 「現代のすぐれたヨーロッパの師たち」



グネス・イエドルゼエフスカ師

ヨーロッパの浄土真宗の中で、  
性がひときわぬきんでておられます。  
グネス・イエドルゼエフスカ博士です。

**アグネス・イエドルゼエフスカ**さんは、大戦前のポーランドの実業家の家庭のご出身です。しかしながらやがて自然科学の道を志され、女医になられたのです。学才に恵まれて、しっかりとした動機をもって研究され、大学ではめざましい経歴を積んで、ワルシャワ大学の神経病理学教授として、研究部門の長にもなられました。

**アグネス・イエドルゼエフスカ**さんが仏教に触れたのは、まだヤルゼルスキーによる独裁体制の時代のことでした。ベルギーの大学教授アドリアン・ペールさんとオーストリアのフリードリヒ・フェンツルさんという二人の西ヨーロッパの真宗信者との会話から、親鸞聖人のみ教えへの強い関心がめざまされたのでした。きわめて合理的な規律のもとで教育を受けたひとりの女性が、しばしば批評家たちから不当にも「変

装したキリスト教徒」と見做されている、仏教の非常に形而上学的な伝統に顔を向けたと言うのは、驚くべきことでもあります。一九九〇年、輝かしい学問的経歴を目前にしなから**アグネス・イエドルゼエフスカ**さんは、仏教に心から帰依するために、自分の職を投げすてる決心をされました。

日本へ居を移されて、日本人の浄土真宗寺院の住職**村石恵照師**と結婚されました。二年後には真宗の僧となる「得度」を受けられたのでした。現在お二人は横浜で寺院を護持しておられます。故郷のワルシャワでは小さい真宗の会をつくられ、ポーランド語での最初の仏教書が出版されました。ポーランドの政治的な改革後に、国家から認められた仏教僧団の中の真宗の代表となられたのでした。とくに熱心に、全ての仏教会派一致の問題と、仏陀のおし

えに関するさまざまの伝統を理解することに打ち込んでおられます。執筆された多数の英語の論文が、アメリカと日本で出版されました。阿弥陀さまへの深い信心から、素晴らしいやり方で、研究者たちばかりでなく、街の善男善女にも語りかけることを会得しておられます。信徒の方々は、女医さんたちばかりでなく、将校も、女性英語教師、中国研究家、定年の女性化学者、学生たちもいます。**アグネス・イエドルゼエフスカ**さんは、これまでヨーロッパの真宗の得度を受けた三人の女性のおひとりです。

F フェンツル

